

業 務 速 報

NO. 1052

2017. 8. 17

J R 東海労働組合

発行 小林 光昭

編集 加藤 光典

2017年度協約・協定改訂第1回団体交渉

本部は8月17日、2017年度協約・協定改訂に向け、第1回団体交渉を開催しました。J R 東海労の要求趣旨、会社の交渉に臨む基本姿勢は以下の通りです。第2回団体交渉は8月23日13時からです。

J R 東海労働組合要求主旨

J R 東海は、2017年度第1四半期の決算において、またしても過去最高益を更新しました。組合員をはじめとする現場で働く労働者の苦勞と我慢によって最高益となったことは、改めて言うまでもないことです。

今年は国鉄からJ R 東海となり30年を迎えました。会社は経営理念を改定し、鉄道運営をより一層発展させていくとしていますが、この間、労使関係や労働条件の改善、安全確立に向けて組合が申し入れてきた組合員の切実な要求は、会社の不誠実な姿勢によって、その多くが改善されないままとなっています。人事賃金制度の改訂から11年が経過し、今年から基準昇給額が最低額の100円となる組合員が発生し、会社が組合の改善要求に応じないために、標準乗数4で、僅か400円しか昇給しないという社会的にも異常な事態を招きました。現行の人事賃金制度では、組合員はもとより現場で働く社員が普通に働いたとしても、会社の恣意的な思惑により社員の昇格が左右されるという不条理な運用がされているからです。

又、安全に関する問題において、特にこの間改善を求めてきた津波対策についてはいまだ改善されず、いつ起きるか分からない大災害が発生した時に、大惨事を起こす恐れが大きいといえます。更に新幹線設備での度重なるトラブルの発生もあり、会社は本気で乗客と乗務員の命を守る姿勢であるのか疑うばかりです。

更に、労使関係の問題をはじめ、上には厚く下には薄いベアの配分、要員問題を発端とする休日出勤や年休問題等など、会社は一方的に解釈と主張を繰り返し、組合の要求に耳を傾けようとしません。特に60歳以降の雇用については、組合員が意欲を持って安心して働ける制度ではありません。今後少子化による労働者の減少が顕著になってくる中、高齢者の労働力が会社にとって貴重なものになることは明らかであり、高齢者が安心して働けるようにしなければなりません。そのための改善が絶対に必要です。

又更にリニア中央新幹線建設について、会社はJ R 東海労と沿線住民の意見を無視し、政府の財政投融资を受け建設を進めています。リニア中央新幹線建設は、自然環境の破壊であり、現状の労働条件のさらなる切り下げ、会社経営を圧迫するだけです。このようなリニア中央新幹線建設は即刻やめるべきです。

J R 東海労は、職場に山積した問題を解決し、将来にわたって安全で安心して働ける労働条件と職場環境をつくる必要があると考え、2017年度基本協約・協定改訂交渉を進めていきます。会社の誠意ある対応を求め、今次交渉にあたるとします。

会社の考え方

協約改訂交渉冒頭挨拶

今年度の協約改訂交渉を開始するにあたり、会社側の基本的認識について述べさせていただきます。

まず、当社を取り巻く経済状況・景気動向ですが、内閣府の7月の月例経済報告によれば、景気は緩やかな回復基調が続いているとされ、企業の業況判断も改善しています。しかしながら、海外の状況に目を転ずれば、緊迫する朝鮮半島情勢、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響など、警戒すべき不安定な要素がなお存在しており、景気の先行きについて楽観視はできないと考えています。

このような中での当社の経営状況についてですが、平成29年度第1四半期の輸送状況は、ビジネス・観光ともにご利用が順調に推移したことから新幹線の輸送人キロが前年同期比で104.6%、在来線の輸送人キロは前年同期比で101.6%となりました。また、第1四半期における単体の運輸収入は、前年同期比4.5%増(141億円増)の3,309億円となりました。

7月以降の輸送量も前年を上回って推移していますが、6月には東海道新幹線におけるトロッコ線断線により大規模な輸送障害が発生しており、また労働災害が増加しているなど、決して安心できる状況ではありません。引き続き安全安定輸送の確保を最優先としつつ、サービスの一層の充実を図り、業務執行全般にわたる効率化・低コスト化の取り組みを続けることで、収益力の強化に努め、中央新幹線建設を始めとする次世代に向けた経営課題に対処していくべきであると考えています。

今次交渉においては、将来にわたって日本の大動脈と社会基盤の発展に貢献するという使命を果たし続け、社員、家族が幸せを実感し続けられるためには何が必要か、対等な立場で議論を重ね、将来にわたって社員が誇りとやりがいを持てる働きやすい職場作りを目指して参りたいと思います。

その一方で、既に極めて高い水準に到達している当社の労働条件について、その水準が世間レベルから乖離している点はないか、また、将来を見通した時に真に必要となるものは何か、役目を終えたものはないか、ということについて常に検証し、労使の認識をすり合わせていくことが重要であると考えています。

以上のような認識のもと、今次交渉において真摯に議論を行って参りたいと考えていますのでよろしくお願いします。

以 上